



▲漁村を見守るように、海のそばに立つ『崎津天主堂』での様子。「近隣の人が気軽に立ち寄るのを見て、地域に根ざした素晴らしい教会だと思いました」(Tさん)



▲「大江天主堂」は、丘の上の可愛い教会という表現がピッタリ。また訪れたいと思いました」(Tさん)



▲3日目は「平和祈念公園」へ。「平和の像」の上に向いている右手は天を目指し、左手は平和を、組んだ足は、今まさに行動を起こすことを意味している。「平和記念公園ではなく、平和祈念公園と書くことの意味を、改めて考える機会になりました」(Wさん)



▲1865年に建てられ、現存する中で日本最古のカトリック教会堂「大浦天主堂」(正式名称は「日本二十六聖人殉教者堂」)。1933年、国宝に指定された。同校の修学旅行生は、ここでミサに与ることができる。「大浦天主堂でのミサでは、慈しみの心、信じる心という目に見えないけれど、大切なものがあることを確信し、とても有意義な体験でした」(Wさん)



▲宿泊は、海辺のホテル「ホテルアレグリアガーデンズ天草」。部屋から海が見渡せ、運が良ければ野生のイルカを見ることができる。



▲「キリスト教徒をテーマとした作品をたくさん書いた遠藤周作の作品と人となりを伝える『遠藤周作文学館』へは、4日目の班別自主研修で訪れました。「遠藤周作氏のお母様は、本校の音楽の教員をしていたことがあります。また、遠藤氏が演劇部のために戯曲を書いて下さったこともあり、本校との縁の深い方です」(中尾先生)

楽しい思い出がいっぱい!



▲「2日目の夜は、レクリエーションで盛り上がりました。ダンスはもちろん、漫才や歌など、ちゃんとオーディションもしました。何事も全力で取り組むのが小林聖心流です」(Aさん)



▲待望のイルカウォッチング。イルカたちと一緒に、約1時間、海の上で遊びました。「イルカが見えたたん、みんな、キャーキャー叫び大興奮!イルカは賢くて可愛い!」(Tさん)

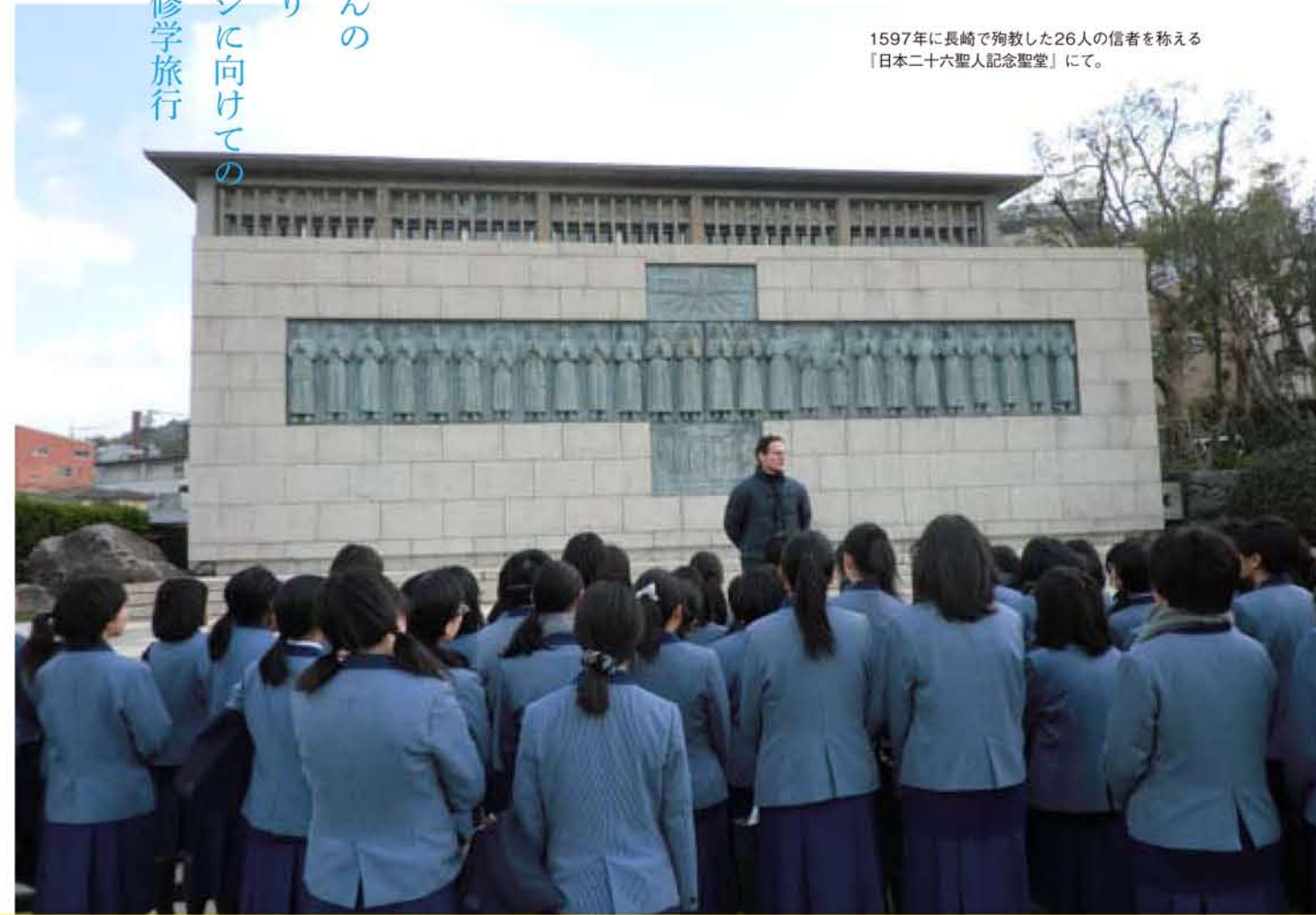


▲イルカウォッチングの後は、海辺でバーベキュー!新鮮な海の幸を、目の前で焼いて、「いただきま〜す!」

仲間とたくさんの思い出をつくり
新たなステージに向けての
決意を固める修学旅行

新私学百景
【小林聖心女子学院】

1597年に長崎で殉教した26人の信者を称える「日本二十六聖人記念聖堂」にて。



3

月20日、この春高3生となった生徒たちが5日間の修学旅行に旅立ちました。行き先は天草と長崎。キリスト教が日本に根づいた歴史と、信仰を受けついだ人々の心に触れ、平和について考える旅となります。

「この旅行では、キリシタンの歴史に関する展示のある『天草切支丹館』をはじめ、『大江天主堂』『崎津天主堂』『浦上天主堂』『大浦天主堂』など、キリシタン史を語るうえで欠かせない歴史の建造物であり、信仰の拠点である教会めぐりです。また、『原爆資料館』では被爆体験者からの講話に耳を傾け、平和を実現するために一人ひとりに何ができるのかを考えます。ほかにもイルカウォッチングや海鮮バーベキューなどの楽しいプログラムもあり、生徒たちの笑顔に満ちた5日間となります」(中尾友也先生)

修学旅行委員を務めた3人の生徒に、今回の修学旅行でもっとも心に残ったことをお聞きしました。

「事前学習で、長崎の原爆について勉強していたので、被爆された方の体験談を聞いたことが印象に残っています」(Aさん)

「大浦天主堂でのミサです。地元の方の方さえも入ることのできない聖堂で、ミサに与ることができました。先輩たちから「大浦天主堂でのミサは一生の宝物になる体験」と聞いて

いたので、期待に胸が高まりました」(Wさん)

「私も大浦天主堂でのミサが印象に残っています。厳かな気持ちになり、今、ミサに与っているみんなと一緒に高3になるんだ」という感動にも似た決意が湧きました」(Tさん)

これから大学受験という大きな目標に立ち向かう彼女たちは、この修学旅行で気持ちを切り替えます。その表情は、まっすぐ前を向き、生きる自信に満ちています。

TOPIC
修学旅行委員に立候補しようと思ったのはなぜですか?

- 「修学旅行を最高の思い出にしたいと思いました。思い残すことなく行動するには、自分から積極的に関わることが大切だと思ったので立候補しました」(Aさん)
- 「先輩から「とにかく楽しい5日間」と聞いていました。積極的に関わること、さらに楽しくなると思ったので、立候補しました」(Tさん)
- 「中学生のときからこの修学旅行が楽しみでした。最高学年として良い思い出づくりをしたかったのと、自分自身が成長できるとして立候補しました」(Wさん)